京都大学農学研究科における国際交流

京都大学大学院農学研究科
縄田　栄治

留学生数：約110名

農学部留学生室（教官２名、事務官１名、日本語教師１名）

沿革および目的：大学の国際化・受け入れ留学生の増加への対応の一環として､1985年６月に設置された。目的は、農学部在籍の外国人留学生及び外国人研究者の勉学・研究の環境整備である。設置にあたって、留学生専門担当教育の講師ポストが設けられた。留学生室担当の講師は、上記の目的に沿った種々の業務を行うだけでなく、自己の専門の立場から、農学部における研究・教育にも携わっている。発足当初は、熱帯農学専攻（下注参照）と緊密に連絡をとりながら、種々の業務・研究活動を行っていた。現在、２人の教官は地域環境科学専攻比較農業論研究分野に所属し、研究活動を行っている。

主要な業務：

１．留学生対象の講義
　日本農業総論（Outline of Agricultural Science in Japan）
　日本農学持論（Special Lecture on Japanese Agricultural Science）
　日本農業構造論（Structure of Japanese Agriculture）
２．農学部国際交流ニュースレターの発行
３．新入留学生に対するオリエンテーション・歓迎パーティの実施
４．見学旅行の企画・実施
５．日本語教室の運営
６．農学部国際交流推進講演会の運営
７．図書・書籍の受け入れ
８．留学生に対する談話室（２室）の提供

農学部国際交流推進講演会：留学生室の国際交流活動支援

京都大学後援会：研究者の受入・派遣、大学院生の海外調査・留学支援

部局間交流協定大学：９大学
（参考：大学間48大学、そのうち授業料等不徴収学生交流協定大学26大学）

短期留学：受入・派遣　若干名

大学院生の海外渡航：

1998年度：66名、うち３ヶ月以上13名（内訳：アメリカ４名、カナダ・スウェーデン・カザフスタン・ウズベキスタン・タンザニア・カメルーン・パキスタン・ベトナム・タイ各１名）

1999年度：144名、うち３ヶ月以上24名（内訳：タイ10名、ベトナム４名、インドネシア２名、イギリス・カザフスタン・ウズベキスタン・ニジェール・タンザニア・ミャンマー・中国・韓国各１名）

大学院生の海外での研究指導委託：

1998年度８名（内訳:アメリカ２名、ベトナム２名、マレーシア１名、ミャンマー１名、タンザニア１名）

1999年度４名（内訳：アメリカ１名、インドネシア２名、タイ１名）

国際共同研究・海外学術調査（1997年）：132件（内訳：農学専攻10件、森林科学専攻34件、応用生命科学専攻37件、応用生物科学専攻８件、地域環境科学専攻28件、生物資源経済学専攻15件）

京都大学国際教育プログラム（KUINEP、Kyoto University International Education Program）

海外の協定校より迎えた20余名の学生とほぼ同数の日本人学生に英語で講義。

1999年度農学部配当科目：「ライフサイエンス」、「21世紀と食品」

2000年度農学部配当科目：「資源・環境・技術と世界の食糧」

注：熱帯農学専攻

1981年、熱帯地域からの留学生の受入・学位取得支援と熱帯農業研究者の育成を２つの柱とし、独立専攻として農学研究科に設置された。1997年、発展途上国が東欧・旧ソ連地域にまで拡大し、さらに農学の国際化が進行した結果、農学部の数多くの研究室が熱帯農業研究に関わるようになった現状を受け、農学部の大学院化による改組に伴い発展的に解消した。